

令和 8 年 1 月 27 日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立第十中学校

校長 安藤 咲織

令和 7 年度 目黒区立第十中学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第 1 回実施日時 令和 7 年 7 月 11 日 (水) 午後 16 時 10 分～午後 16 時 50 分

- ・本校の教育課程
- ・本校の学校経営方針
- ・本校教育活動の現状と課題

(2) 第 2 回実施日時 令和 8 年 1 月 27 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分

- ・本校教育活動の学校評価について
- ・今年度のまとめ及び次年度の課題について

2 参加者

島田 功一郎評議員・吉澤 明美評議員・岸人 弘久評議員・岸本 志央評議員
宿野 晋一評議員 ・安藤 咲織校長 ・関根 公子副校長

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	四者*による学校評価アンケートの結果分析 ◎ (成果)、● (課題)、 ⊙ (成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて	◎学校生活の印象について、保護者、地域は 91.5%、95.2%と肯定的評価は、昨年よりも上回り、生徒自身も、充実していると 96.1%が回答している。学校の状況は、安定し、良好だと捉えられているといえる。 ●教職員の対応について、保護者や地域の肯定的な意見が、それぞれ 1.2p、1.8p、減少している。逆に、教職員も保護者や地域からの協力について、肯定的評価が 8.5p 減っているため、やや相互的な関係性が希薄になっていることが課題である。 ●一昨年度より、学校評価を電子データで実施しているが、保護者の回答率が昨年度よりも、13.3p 下がり、昨年度同様、分析が難しい。	・令和 8 年度も、生徒の主体的な活動を充実させて、各教育活動を多面的に改良していけるように、生徒のために一丸となって協働できる学校を創り上げていく。 ・教職員自身が資質や指導力の向上をめざしながら、生徒一人ひとりの存在を大事に考える視点から、保護者また地域の方々の立場やご意見にも、耳を傾けていく姿勢を強化していく。 ・学校評価の回答は、H&S を活用するが、事前に保護者向け通知文と質問内容を紙ベースで配布する等、デ	・集計結果をまとめるには、電子データの方がやり易いかもしれないが、紙ベースの方が全体を見なが

		<p>デジタルとアナログの両方を活用することで、回答率を上げる。</p>	<p>ら、細かく書けるので、よいのではないかと。</p>
<p>Ⅱ 教育目標について</p> <p>・教育目標、時程、教育内容全体について</p>	<p>◎昨年に引き続き、四者ともに、昨年度よりも肯定的な評価が上昇し、本校の生徒や地域の実態に相応しいと考えられている。それは、学校だよりや学校行事、また校長の講話等においても、教育目標に触れているからだ、と考えられる。</p> <p>◎教育活動全体についても、全て90%越えの肯定的評価が出ている。</p>	<p>・「学校だより」等の発信を受け、保護者や地域の方々は、教育目標を定期的に認識されていると思われる。今後も、生徒に学校の教育目標について、年度当初や行事等を通して、理解を深めさせていく。また、継続して学校だよりは、紙ベースで生徒が読む機会を作っていく。</p>	
<p>Ⅲ 心の教育について</p> <p>・道徳科(道徳)の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p>	<p>●今年度は、講師を招致して、道徳授業地区公開講座やLGBT-Qの人権講演を実施した。</p> <p>2学年の生徒は、いじめ問題について行動宣言等まで考える機会があったが、全校生徒においては、不十分であったと考えられる。</p> <p>◎多様性を考える人権講演、命の尊さを考えるがん教育、道徳的実践力を高め、思いやりをもって生活する指導を、通年実施することができた。</p>	<p>・令和8年度は、人権教育推進校として、今まで以上に人権について考える機会を多く設け、保護者が、生徒の言動を通して、思いやりや自己肯定感の高揚を感じていただけるよう、豊かな心の教育を実践していく。</p> <p>・人権講演や命の尊さを考える授業、道徳の授業、いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議等の後に、生徒に意見表明、合意形成及び参画の機会を設ける場を増やし、生徒の変容を配信していく。</p>	<p>・生徒の多様性も増し、家族の関わり方も、家庭によって、異なっている。</p> <p>子どもには、スマホやゲームを与えるが、人と関わる上で、大切なことが、伝わっていない。</p> <p>・「いじめをなくす」のではなく、「いかに気が付けるか」を考える。</p> <p>・AIが、どれくらい対応できるのかを考えていく。</p>

<p>IV 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、主体的に学習に取り組む態度等の取り組みについて ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>◎保護者の学習指導に関する肯定的評価が、79.1%となり、昨年よりも2.3p上昇している。一昨年からは、およそ17p上昇している。学習用情報端末の活用に対する生徒の肯定的な評価が92.4%であることから、授業での指導法や生徒のデジタルドリルの利活用や課題の提出法、他者との共有法も改善されていることがわかる。</p> <p>●生徒の学力の定着・向上の為に、英語や数学の少人数クラスを実施し、水曜日の補習教室、定期考査の前の質問教室等、学習環境を整備している。生徒に対して「あなたは授業が分かりますか」という質問への肯定的評価には、全学年において、80%越えをしているものの、学習に取り組む態度については、昨年より8.4p減少している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度も、今まで働きかけてきた授業や行事でのICT機器の活用を継続しながら、生徒が自己の課題を把握し、その解決に導けるよう、自己選択学習、探究的活動の支援を行っていく。 ・令和8年度、教員は、学習の指導方法、適正な評価評定、評価材料についても校内研究の充実を図って、身に付けていく。また、「主体的に学べる学習環境の整備」を推進していく。 ・保護者会で、各教科の学習指導内容や目標及び評価について、保護者に知っていただく機会を設ける。 	
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎生徒自身が「学校で一生懸命に運動したり、健康に気を付けていたりして生活していますか」の肯定的評価が85.2%で、昨年より3.3p減少してはいるが、8割強の生徒が健康や運動を意識して生活していることが分かる。保護者は運動会や区の連合体育大会、部活動を通して、学校の健康促進について、肯定的な評価が向上している。</p> <p>●教職員の肯定的な評価が、昨年度より15.2pも下がっている。これは、春先から受験への不安を理由に保健室利用が増え、体育の授業や部活動等の様子を見て、生徒の心身の健康に懸念を抱くことがあったことが、日常の報告からも理解できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員や給食委員による、掲示活動やたよりの配信、生徒会朝礼等での発表を通して、生徒が主体的に、健康維持や促進、体力の向上について留意し、自己コントロールできる力を付けさせていく。 ・令和8年度は、各学年の発達段階に応じて、生徒が自分の心と身体の状態を保つ生活習慣について、保健指導や道徳の授業等を通して、正しい知識や見通しをもたせるよう指導をしていく。また、保健体育の授業等で体力向上意識を深めさせる。 	

<p>VI 特別活動について</p> <p>・学校行事の充実、異学年交流活動、部活動の活性化などについて</p>	<p>◎地域の評価は、昨年度よりも10.6pも上昇している。合唱コンクールでの生徒の努力の成果や、部活動の活躍を、評価されたといえる。</p> <p>●「学校行事や生徒会活動、部活動で、充実感を得られている」生徒は、昨年より4p上回る93.7%と高評価を維持し、保護者も86%が肯定的な評価をしている。但し、若干マイナスの評価であるのは、自由意見の内容からも、「働き方改革」を推進している為、部活動の活性化やコーチの要望からくるものだとして理解できる。生徒の自主的活動が図れていることを評価されているのが分かる。</p>	<p>・令和7年度も、運動会や合唱コンクール等の学校行事では、実行委員会の取組等、生徒たちが主体的に取り組めるように工夫してきた。令和8年度は、さらに生徒がボランティア等の活躍が出来る機会を増やしていく。</p> <p>・部活動については生徒、保護者の理解を得ながら、地域移行や働き方改革を進める。</p> <p>・年度当初に、部活動が存続するための協力へのご理解を、保護者へ校長先生から、話をする。</p>	<p>・十中生の頑張りはとても嬉しい。</p> <p>・練習量が減ってきている印象を受ける。</p> <p>・教員は、その部活が専門とは、限らないが、顧問の差が激しい。さらに地域人材を活用してほしい。</p> <p>・学校からも告知し、後援会からも協力を促す。</p>
<p>VII 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <p>・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>◎保護者や地域の学校生活に対する印象は89.1%、85.7%と肯定的な高い評価となっている。これは、校内外の生徒の様子から、そのように捉えられたと推察する。</p> <p>●生徒の生活面に対する肯定的評価は、昨年度より4.3p減少しているが、別資料での「あなたは、落ち着いて生活していますか。」の項目で92.5%が肯定的評価であった。9割の生徒が、本校の学校生活に安心感をもって生活していることがわかる。一方で、「悩み事をスクールカウンセラーや大人に相談することができるか」の項目では、肯定的評価が71.9%となって</p>	<p>・令和8年度も、更に教職員一丸となって、生徒の安全で充実した学校生活が送れるように、生活習慣の定着、心の教育や他者理解、授業規律や規範意識の向上に、組織的に対応していく。</p> <p>・本校では、毎年夏休み明けに、「ふれあい週間」を設け、相談した先生と話せる機会をもっている。また、普段から教職員は、生徒に寄り添う姿勢をもち、教育活動をしている。</p>	

	<p>いるので、心を開いて話せる大人がいないと、考えていることが3割弱いると考えられる。</p> <p>●昨年度、規範意識の低い生徒が一部におり、授業規律や生活一般での苦慮があったので、昨年度と比較すると、教職員の肯定的評価が、13.3p 向上して 80%という結果になっているといえる。それでも、長期欠席や自身及び家庭内に問題を抱える生徒は、どの学年にもおり、校内別室指導支援員、特別支援教育支援員等もいるが、学級担任の担う責任の重圧は軽減されにくい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度も生徒が自ら生活のルールやマナーについて考えを深め、正しく判断して行動できるように促していく。 ・問題行動、いじめや不登校問題、特別支援については、常に情報の共有を行い、生活指導部、教育相談部を核として、組織的に保護者や関係諸機関と連携し、未然防止・早期発見・早期解決に努める。 ・令和8年度も総合質問紙「i-check」を、年2回実施し、学校全体で共有し、生徒理解を深め、学年、学級指導に役立てていく。 	
<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<p>◎生徒の災害や事故に関する安全教育に関しての肯定的評価は 95.8%と非常に高い。「災害時に、自分の身を守るため、適切に行動できるか」という質問にも、94.3%が肯定的な意見をもっている。</p> <p>●不審者の侵入や火事、地震等の場面を想定した実践的な避難訓練を実施している。自転車の事故や SNS による事件も多発していることを鑑み、今後も情報リテラシーを身に付けるセキュリティ教室や安全指導を、校内においても実施する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度も、年間を通じて計画的に、安全教育や情報モラル教育、避難訓練を実施し、防災に関する意識を高めていく。 ・生徒の授業中の使用の仕方に応じて、学習用情報端末の使用目的や場面を明確にし、対人関係における SNS 学校ルールの見直し等を行う機会を作る。 	

<p>< 小・中連携 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について 	<p>◎年3回の十中学区の3つの小学校との連携も、計画的に実施することができている。</p> <p>十中校区での里帰りあいさつ運動を、4月・10月の年2回実施、あいさつスローガンやポスターの作成など、児童生徒の主体的な参加がみられた。生徒会が作成した動画を、校区の小学校の保護者会で公開していただくことができた。</p> <p>●6年生と中学2年生で実施する、「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」は、各校の担当者からの報告を、事前に管理職や生活指導主任が把握できていなかった。運営の仕方の課題を来年度活かす必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度の小中連携のテーマを「自ら学び進める児童生徒の育成」として、十中校区の三校の小学校と、より密に連携を取りながら、計画的に連携活動を進める。 ・地域懇談会の主催であるこの「あいさつ運動」は、令和8年度も、春秋に実行し、小学校との縦割り学年活動の成果が出るように、学級活動や美術等の教科指導も合わせて、関わっていく。 ・来年度は、この会議に向けて、事前の準備から、当日の運営の仕方まで、生活指導主任、教務主任を中心に、連携を図り、担当者からの報告や相談に受けられるように、運営の仕方を改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の人事異動もあり、毎年それぞれの学校で、状況が変わるので、連携内容もその年度に応じた形にして育必要があるのではないか。
<p>Ⅷ 情報の発信、家庭・地域との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA活動の充実などについて 	<p>◎保護者、地域の肯定的評価が89.1%、95.2%となり、それぞれ0.7p、10.6p 向上した。</p> <p>環境に配慮したペーパーレス化を持続し、区や学校からのたよりや各種のお知らせを Home & School や L-gate で配信して、着実に保護者に届くようにした。</p> <p>また、行事のプログラムや感想等の記入、ポスターコンテスト等への参加も QR コードを活用し、参加し易くした。</p> <p>地域には、HP の充実を図り、紙でも、行事のお知らせや学校だよりを配布し、情報発信を工夫している。これらのことが評価されたものと考えられる。</p> <p>◎生徒への配信は、学習用情報端</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度も Home & School の活用を推進し、保護者との通信の手段だけでなく、行事での活用を充実させていくよう、努める。 ・使いにくい方には、配慮を継続をしていく。 ・今後もホームページの整備を組織的に行い、記録は適切に編集、保存し、学校の教育活動の情報発信力を高める。 ・来年度も、配信する内容によっては、印刷をして、生徒に手渡しをすることで、朝読書の時間などで、一斉にたよりやお知らせをよむことができ、メッセージが生 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の学校だよりを楽しみにしている。特に、「十中生の活躍」は、嬉しく拝見している。学校のことを、知ることが大事である。

	<p>末のドライブを活用している。</p> <p>学校だより等、内容によっては、印刷をして配布し、生徒たちが読める機会を増やしている。</p>	<p>徒に届くようにしていく。</p>	
<p>IX 教員の人材育成について</p> <p>・日常の職務における専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について</p>	<p>◎今年度は特に、教職員が、それぞれの職種で、OJT の視点で、授業改善を目的とした授業観察を行った。また、若手教員の生徒指導等についても、助言し、ベテラン教諭、中堅教諭も、お互いに学び合える協働体制を重視してきた。</p> <p>また、区の研修に加えて、都の専門的な研修にも参加している者もいる。教員の ICT 機器を活用した授業や特別活動、総合的な学習等における学習用情報端末の活用能力は向上している。</p>	<p>・令和8年度は、7年度に下地を築けた、教員間での授業観察を継続していく。また、授業力向上を目的とした校内研究を中心に、より組織的な人材育成を行っていく。</p> <p>・教職員が専門性の知識や実践力を向上させるために、自己申告の面接等で、自己啓発や研修計画等を確認していく。</p>	<p>・教員の中で、研修を自ら受けようという姿勢があることに、驚きます。</p>
<p>X 教員の働き方改革について</p> <p>・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</p>	<p>◎教職員の打ち合わせや会議資料をデータ化、家庭からの連絡手段に Home&School の活用を推進し、会議用資料や通信をペーパーレス化する等、業務の効率化を図ることができている。</p> <p>特に、定期考査の際、教員は自動採点システムを更に活用し、採点が時短になり、余剰の時間を生徒との関わる時間に当てることが出来た。また、部活動指導員活用の推進を進めてきた。教員の長時間の在校時間を減らす意識を高めている。</p> <p>●業務改善を進めても、全体的に業務量が軽減されない。スクールサポートスタッフが、かなり授業準備や進路関連の資料の準備まで首尾良く補助してくれているが、教員の人員不足や兼務、その他勤怠の条件も影響して、同じ教員に負担がかかってしまう状況は、否</p>	<p>・令和5,6年度、業務改善モデル校として、実践してきたことの成果を維持し、改良すべき点は改良し、生み出した時間が、より生徒の為の充実した教育活動につながるよう、業務改善を進める。</p> <p>・複数の部活顧問になるよう、さらに外部人材活用を進め、地域への人材への移行にも前向きに取り組み、教員の負担感を軽減させていく。</p> <p>・組織の編成において、各分掌の中で、OJT による若手</p>	<p>・業務の偏りが出てしまう背景に、行事や分掌の担当が重なる等、組織の課題があることがわかりました。</p>

	<p>めない。</p> <p>●行事の精選、やり方の見直し、会議の回数や時間も制御しているが、学年独自の行事を実施することもあり、教員の多忙さは軽減が難しい。地域の人材の活用や業務のやり方の工夫や、さらに諸行事の精選を行っていく必要がある。</p>	<p>教員の育成も鑑みながら、教員の業務の偏りを改善できるよう、サポート体制を強化する。</p> <p>・ただ行事を精選するだけではなく、学年独自の行事の追加は避け、学校全体で系統立てた行事を、内容を充実させていくことを、学校全体で、確認していく。</p>	
<p>XI 服務事故の防止について</p> <p>・服務事故防止に向けた取組などについて</p>	<p>◎服務研修を年3回実施し、日常から、服務事故を起こさない組織を目指し、教職員同士の声掛けを行えるようになっていたことが、9.5%上昇したことに表れている。</p>	<p>・令和8年度も教員の働きやすい職場環境を作りつつ、心身の健康に留意し、服務事故ゼロの目標として、定期的に研修を行うだけでなく、日常の業務状態をみながら、警鐘をならしていく。</p>	